

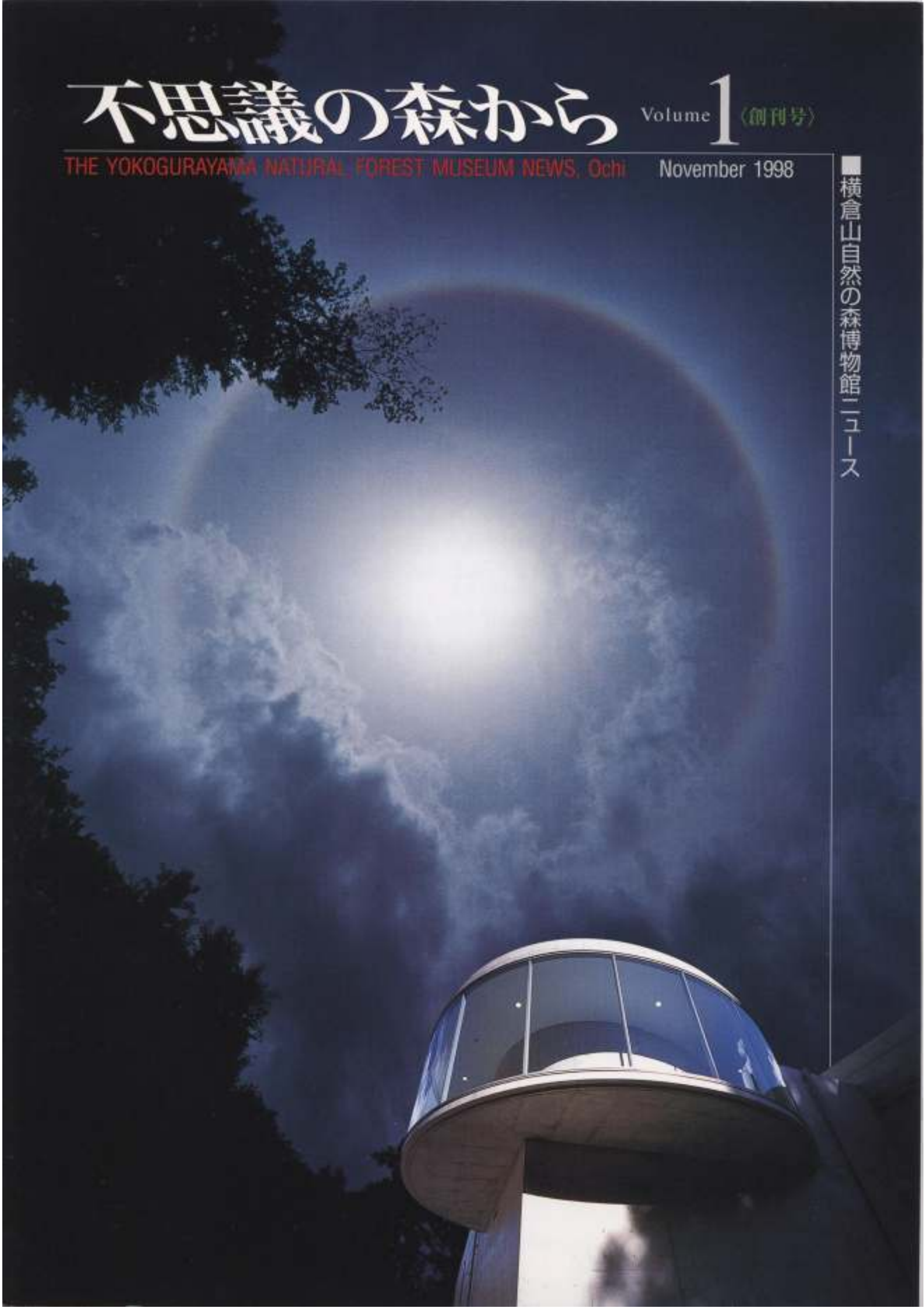
不思議の森から

Volume 1 (創刊号)

THE YOKOGURAYAMA NATURAL FOREST MUSEUM NEWS, Ochi

November 1998

■横倉山自然の森博物館ニュース



「博物館ニュース」に寄せて

高知県越知町長 吉岡 珍正

横倉山は、越知町のシンボルとして町民に愛されてきた山です。地質学上、植物学上非常に貴重な山であるばかりでなく、安徳天皇潜幸伝説の伝わる山としても広く知られています。森林破壊、地球温暖化など地球環境の悪化が危惧されている昨今、横倉山が魅力的であるのは、太古からの自然が今なお残されていることだと思います。

私は、職務の合間をぬって山歩きを楽しみますが、横倉山にはアカガシの原生林や樹齢600年以上の大杉群があり、ヤイロチョウを始めとする野鳥やホンドリス、ムササビといったさまざまな生き物が生息しています。横倉山自然の森博物館は、これら横倉山のもつ貴重な自然資源や歴史的資源を守り後世に伝えていくとともに、地球の歴史について紹介していく施設として建設しました。

オープンして一周年を迎え、3万人を超えるお客様に来館していただいています。小さな子供たちから高齢者まで、幅広く来館していただいていることを何より嬉しく思っています。

この博物館ニュースは、不思議の森からのメッセージとして、これからみなさま方のお手元にお届けしていきたいと考えています。

21世紀に向かって

横倉山自然の森博物館長 堀見 矩浩

横倉山を背に朝日に映える博物館は、さわやかな風にそよぐ緑の森に包まれ、今日も野外学習で訪れた子どもたちの元気な声に満ちています。昨日は、合同機能訓練と研修を兼ねた車椅子の人々で賑わいました。横倉山の奥行のある自然は、博物館ともども人々を深く包み込み、神秘と驚異を見せてくれます。

横倉山の自然を森とともに見ていただくこうとする当館では、ここに「不思議の森から」と題する博物館ニュースを発行することとなりました。館の活動や研究の概要を報告し、その状況を広く知ってもらおうとするものです。博物館の展示そのもので横倉山を知っていただくとともに、このニュースでなお理解を深めていただきたいと考えています。

当館は、本年10月、開館一周年を迎えた新しい博物館です。21世紀に向かって新しく足を踏み出しました。次代を担う子どもたちのために博物館ニュースの内容を充実し、活発な活動をしなくてはなりません。ご高評・ご指導をお願いいたします。

地球の生いたちを解く鍵が隠されている横倉山

安井 敏夫

越知町のシンボル横倉山は、日本最古のオルドビス紀の化石産地として知られているだけでなく、古生代のシルル紀と呼ばれる今から約4億3千万年～4億2千万年前のサンゴを主とする化石を多く産することで古くから有名である。これらの化石は、かつての赤道付近のサンゴ礁を形成していたクサリサンゴやハチノスサンゴ（共に絶滅種）などの造礁サンゴとそこで生活していた三葉虫・直角石・腕足類・海ユリなどさまざまな化石動物群である。ちなみに、これらの化石を含む石灰岩は、一般に淡い桃色をしていて、“土佐桜”と呼ばれる愛称の装飾建築石材として、県内はもとより全国各地の公共施設やビルなどで使用されている。

このように、古横倉山は、かつて南半球を中心に存在した Gondwana 大陸と呼ばれる超大陸の一部を成す微小大陸として赤道付近にあった。そして、海域ではサンゴ礁が発達していたが、陸域では火砕流を伴う激しい火山活動が起こっていたことが岩石の証拠からわかり、シルル紀～デボン紀を通じて陸上の火山活動が活発であったといえる。そして、この火山活動の場は大陸性地殻である花崗岩（横倉山花崗岩）から成る微小大陸・黒瀬川地塊上であったこともわかる。

このほか、横倉山からは、日本唯一の筆石（ふ

でいし）の化石や、日本最古〔約3億6千万年前〕の陸上植物であるデボン紀の鱗木（りんぼく）などの化石も見つかっている。そして、横倉山から産する化石の中で、シルル紀のある種のクサリサンゴとデボン紀の鱗木は、オーストラリアや南中国から産するものと同種のもので、かつてこれらの地域が非常に近接していたことを物語っている。

赤道付近のサンゴ礁だった古横倉山は、その後 Gondwana 大陸から分裂し、大陸の移動に伴い長い年月をかけて北上していった。そして、アジア大陸東縁部に到達した後、大規模な横ずれ断層によって黒瀬川地塊が分裂、その断片が大きく水平方向に移動し、現在の位置にたどり着き、横倉山の原形ができ上がった。その後、百万年前くらいからの四国山地の隆起に伴い横倉山も一気に隆起し、その後の風化侵食により現在のような雄壮で神秘的な姿へと変わっていった。

横倉山を構成する岩石とそれに含まれる化石には、はるか4億年以上も前の地球の姿や生物相を解明する手がかりが秘められており、日本列島の歴史だけでなく、地球の歴史を探る上で欠かせない存在といえる。

（やすい・としお）学芸員



自然からの 感動的なメッセージを 聞いてください。

横倉山は、日本最古の化石(コノドント)をはじめ、4億年以上も前のサンゴや三葉虫の化石などが産出することで知られています。また、日本の植物学の基礎を築きあげた牧野富太郎博士の研究の山として知られ、博士がこの山で発見し、新種として命名した植物が自生しています。さらに、安徳天皇一行が、源平の屋島檀ノ浦の戦いからひそかに潜幸され、安住の地とされた伝承の山でもあります。

横倉山には現在でも、日本でもまれなアカガシ原生林や大杉群が残されており、ホンドリスマムササビなどの野生動物も生息しています。

横倉山自然の森博物館は、この横倉山がもつ貴重な自然や多くの歴史、そして地球の歴史などを紹介しています。



展示室ご案内

【越知町・横倉山パノラマモデル】

横倉山を中心とした越知町の立体地形模型と、映像解説で、越知町の自然や文化、歴史のあらしを紹介します。

【アカガシ原生林の不思議】(写真①)

横倉山の尾根に広がるアカガシの原生林。その中で繰り返される自然のサイクル、感動的な生命のドラマや、この森ならではの珍しい植物や動物の生態系を、ジオラマで見るコーナー。

【横倉山のおいたち】(写真②)

今から約4億2~3千万年前、南半球にあったゴンドワナ大陸が分裂し、その一部が長い年月をかけて、今の横倉山の位置まで移動してきました。その当時のサンゴ礁の海に棲んでいた生き物たちの化石や、当時の海底の様子を見ることができます。横倉山のある越知町の地質は、数万年前の仁淀川の河原だった…。化石や岩石を調べることで、大地の動き、山がいつできたか、日本列島はどのようにしてできたのか、などがわかります。

【地球の歴史】(写真③④)

誕生から46億年。海、山ができ、最初の生命が、そして人類がうまれた。地球と生命の進化のドラマを、生き物の化石や岩石、隕石などを通して知るコーナーです。

【横倉山の地質と自然観察・体験コーナー】(写真⑤)

越知町には、横倉山以外にも地質学的に特徴のある場所がたくさんあります。その様子を見てください。また、化石にさわったり、隕石を持ち上げたり、その特徴を体験してください。

【歴史と伝説の横倉山】(写真⑥)

壇ノ浦の戦いで入水した安徳天皇。実は四国の山々に落ち延びて、横倉山で暮らしていたという伝説や、江戸時代の越知町の様子などを、人形や映像、模型などで紹介します。

【牧野富太郎と横倉山】(写真⑦)

横倉山にはアカガシの原生林や、ここだけにしかない珍しい種類など、数多くの植物が自生しています。この山で熱心に研究を続けたのが世界的な植物学者牧野富太郎博士、博士の発見、命名した植物や、フィールドワークの様子を見てください。

【横倉山でのフィールドワークとルール・マナー】

これから山に登る人、登ろうかなと思っている人のためのコーナー。フィールドワークの楽しさや、山でのルール、マナーなどが学べます。パソコンでのQ&Aが人気です。



設計は世界的建築家、安藤忠雄氏。





織田千齡とヨコグラツクバネ

堀見 矩浩

横倉山のタイプ植物は28種ある。そのうち、牧野富太郎博士が命名・発表した植物は実に25種あり、横倉山は牧野博士によって“植物の宝庫”として世に出されたといっても過言ではない。

ところで、その25種の中の一つであるヨコグラツクバネは、ユリ科の多年草で、高さ20cm内外。葉は茎の先端に3~4枚あって輪生。現在も山頂に自生する横倉山を代表する植物である。

このヨコグラツクバネは、越知町の織田千齡が採集した標本が、大正元年、牧野博士によって新種として学界に発表されたものである。牧野博士は、他のツクバネに比して花柄と葉の間が短いところから「ヨコグラツクバネ」の名を冠した。「ヨコグラ」は発見地、「ツクバネ」は形状が羽子板の羽根に似ていることに由来したものである。

このヨコグラツクバネを採集した織田千齡の業績については、これまであまり詳しくにされていないが、明治時代、郷里越知の小学校の教員であった。越知小学校に残されている履歴簿で調べると、その経歴は次のとおりである。

○織田千齡（おだ・ちとせ）

明、4.10.22 越知村越知501番屋敷(楠神)において織田直盛の長男として生まれる

✧.26.3.18 高知県尋常師範学校卒業、小学校本科准教員免許状を受ける

✧.26.3.31 高岡郡下半山尋常小学校准訓導となる

✧.27.2.1 高岡郡黒岩尋常小学校准訓導となる

✧.✧.4.10 高岡郡越知尋常小学校准訓導となる

✧.✧.5.11 小学校本科正教員免許状を受ける

✧.✧.5.11 高岡郡越知尋常高等小学校訓導となる

✧.✧.7.17 越知村織田真吉長女里奥と結婚

✧.41.11.17 愛媛県立八幡浜商業学校助教諭となる

千齡が以上の経歴であることは明らかになったが、履歴簿ではヨコグラツクバネを採集した時期を明らかにすることはできなかった。ただ牧野博士の学界発表が大正元年であるので、その採集はおそらく、明治末年、八幡商業学校に赴任する前

後ではないかと思われる。

ところで、筆者が千齡の事績を調べていた頃、「織田千齡の採集した標本が越知小学校に保管されていたはずだが」という話が寄せられた。当時、筆者は越知小学校に勤務していたので早速理科室を調べてみたが、なにしろ80年ほど前のこと、学校にあるはずはなかった。しかし関係者に当たっていくうち、「その標本は、戦時中、学校から千齡の実家のある楠神に疎開させた」「5年生か6年生の頃だったが、わたしたちがそれを運んだ」と証言する人が現れ、なお、「標本はその後、東京の牧野博士のところに送られたようだ」との情報を得た。

以上のような経緯で織田千齡が採集した標本はすでに採集地越知を離れていることが明らかになった。所在が不明のまま、いわば“幻の標本”となっていたわけである。

ところが、このたび牧野関係の資料調査をしている過程で、その標本が東京都立大学の牧野標本館にあることが判明した。

牧野標本館には、博士の残した4万点の植物標本が保存されており、その中の一枚にヨコグラツクバネがある。採集して標本作成のため挟んだ当時の新聞紙に、毛筆で書かれた「土佐横倉山」と「織田千齡」の博士の直筆が、標本と共に保存されているのを見ることができた。

また、発表された当時の「植物学雑誌」を調べてみると、ヨコグラツクバネの項の最後に「Hab. Prov. Tosa: Mt Yokogura (S. Oda!)」と、採集地が「横倉山」、採集者が「織田」であることが明記されている。

このようにしてヨコグラツクバネが新種として発表された後、千齡は牧野博士のいる東京に出て早稲田実業学校の教員となり、植物の採集と研究に精根を打ち込むようになる。そして日光山で採集した植物の展覧会を上野の寺院で開き、植物研究者として注目されだしたが、不幸にして病を得、大正8年1月郷里で没した。時に49歳であった。

織田千齡は安徳天皇潜幸伝説のある横倉山の山麓に生まれ、ヨコグラツクバネを発見・採集した郷土出身の植物研究者である。千齡の家は伝説の安徳天皇陵墓の守部であった。そのため上京の際

しては、その権利を人に譲らざるを得なかったという。そこに何か運命的なものを感じずにはいられない。

(ほりみ・のりひろ) 館長

博物館日誌(抄) ('97.10~'98.10)

〔平成9年〕

- 10月11日(土) 開館記念式典
- 10月12日(日) 開館(入館者1,623名)
- 11月16日(日) 入館者が1万人を突破する
- 11月19日(水) RKCラジオにて放送される
- 11月29日(土) 開館記念特別講演会を開催する
「日本列島形成史の原点-横倉山」
(東京大学名誉教授 浜田隆士先生)
- 11月29日~2月1日 開館記念特別展「恐竜展」を開催する

〔平成10年〕

- 3月11日~5月5日 映像展「横倉山フォトギャラリー」
- 3月29日(日) 第二回高知県新しいなかデザイン賞(建築物・建造物の部)を受賞する
- 4月29日(水) 入館者が2万人を突破する
- 4月29日(水) テレビ高知特別番組で放映される
- 5月10日(日) 高知チャールズ会の写真会が当館で行われる
- 5月16日(土) 「横倉山の自然見てある記-植物園鑑-」刊行・発売開始

- 5月17日(日) RKCハローワークにて310名入館
- 5月26日(火) 高新文化教室(吉井絵画教室)の写生会が当館で行われる
- 6月8日(月) 高知新聞特集「土佐うおっちゃん」で当館が紹介される
- 6月16日(火) 照明設備が四国照明学会賞受賞
- 7月7日(火) 入館者2万5千人突破
- 8月1日~8月31日 夏休み映像展「横倉山フォトギャラリー」
- 8月5日(水) 夏休み博物館教室(昆虫教室)開催
- 8月15日(土) 夏休み博物館教室(植物教室)開催
- 8月25日(火) 夏休み博物館教室(化石教室)開催
- 9月27日(日) やよい会の俳句吟行会が行われる
- 10月3日(土)~18日(日) 「KOSUMOSU」10人10色展を開催する(アトリエよくばり子リスと共催)
- 10月9日(金) 入館者が3万人を突破する
- 10月17日(土) 開館一周年記念オーブントーク「自然とアート」開催
- 10月17日(土) フォレストクラブ(友の会)発会総会

友の会だより

横倉山自然の森博物館友の会「フォレスト・クラブ」の発会総会は、平成10年10月17日(土)、博物館大ホールで開かれ、規約採択、役員選出を行いました。

新役員は次のとおりです。

会 長	古味 敬規	運営委員	斎藤 政広
副会長	竹内 鹿雄	＊	玉井 睦祐
	＊ 箭野 千賀	＊	山崎やすこ
監 査	北川 勝一	＊	山中嘉寿馬
	＊ 藤原 俊夫	＊	山中 伸一
運営委員	岡 義雄	＊	横川 正安
	＊ 加納 稔久	＊	横山美代子
	＊ 片岡とき子	＊	小田 保行

館員はいま

(堀見) 前日、団体で来た車椅子の人が、翌日、また来る。「館長に逢いに来た」と、奥さんといっしょに——。こんな“恋人”を増やしたい。

(小田) 心やすらぐ博物館にと思いつつ、はや1年が過ぎました。人間も自然の一部、この博物館で光や風、水や緑と交信してください。

(安井) 来館者から、来てよかった、勉強になった、と言われるような人々から愛され親しまれる博物館でありたいと願っている。

(片岡) 遠足で博物館を訪れた小学生を案内する。あっという短い時間だったが、みんなで「ありがとう」。すばらしい出会いでした。

(西森) 小さな女の子に「おばちゃん、バイバイ」と言われる。苦笑しながら「バイバイ」と見送る。受付係で頑張っています。

開館一周年記念特別展◆'98年11月1日(日)→11月29日(日)

化石が語る 太古の生き物たち

その不思議と進化——



5億3000万年前の海。
爆発的な進化をとげた
想像力を超える生き物たち。
人間の想像力は
自然の造形力に及ばない。

●主な展示内容

カナダ・ロッキー山脈から見つかった5億3000万年前の奇妙な生き物たち。
その拡大模型とコンピューターグラフィックスのリアルな映像により、
それらの生き物たちの不思議な生態と進化の謎にせまります。

●入場料/高校生以上 200円 小・中学生 100円

●後援/NHK高知放送局、NHKサービスセンター

高知新聞社、RKC高知放送、テレビ高知、KSSさんさんテレビ



高知県越知町立

横倉山自然の森博物館

〒781-1303 高知県高岡郡越知町越知丙737番地12 TEL.0889(26)1080 FAX.0889(26)0620

●開館時間：午前9時より午後5時まで

最終入館は午後4時30分

●休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
12月29日から翌年の1月3日まで

●入館料：大人……………500円 (中学生20名以上は上の子は100円引)

高校・大学生……………400円

小・中学生……………200円

●越知への交通

高知	高知自動車道	佐田	バス約25分	越知
高知	高知自動車道	高知	バス約25分	越知
松山	高知自動車道	越知	バス約25分	越知

